仙台市公民館運営審議会議事録

（令和６年３月定例会）

○　日　時

令和６年３月 14 日（木）午前 10 時 00 分～12 時 00 分

○　会　場

生涯学習支援センター　５階　セミナー室

○　出席者

〔委員〕　相澤雅子委員、伊藤美由紀委員、佐藤美智子委員、千田恵委員、塚田昭美委員、原義彦委員、牧靖子委員、三浦和美委員

〔事務局〕　生涯学習支援センター長　武者
生涯学習支援センター次長　内海
生涯学習支援センター事業係長　横山
青葉区中央市民センター長　吉田
宮城野区中央市民センター長　石川
若林区中央市民センター長　梅沢
太白区中央市民センター長　猪股
泉区中央市民センター長　内海
地域政策課長　市川
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団市民センター課長　佐藤
（欠席：生涯学習部長　柴田、生涯学習課長　田村）

○　傍聴人

なし

○　資　料

資料１：本日の協議の進め方
資料２：大沢市民センター事例報告
資料３：八木山市民センター事例報告
資料４：加茂市民センター事例報告

※会議の概要

１　開　会

事務局：本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、令和６年３月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。

初めに、資料の確認をお願いいたします。次第、資料1～資料４を事前に送付しております。また、机上に、本日の席次表と令和 4 年度仙台市市民センター事業概要を配布しております。席次につきましては、欠席の委員がおりますので若干移動しております。なお、前回の審議会で事業概要に書き込みをしたいというご要望いただきました。表紙に委員名を記入し、審議会の都度各委員の机上に配布いたしますのでご自由に書き込み願います。

本日は、市瀬委員、門脇委員、熊谷委員、坂入委員、佐々木委員、佐藤正実委員、以上の６名の方から欠席のお返事をいただいております。現時点で、委員の過半数である 8 名以上の出席を充たしておりますので、市民センター条例施行規則第 10 条第３項の規定により、有効な会議として成立しております。

続きまして、事務局より本日の欠席職員のご報告をいたします。生涯学習部長、生涯学習課長が勤務の都合により欠席いたしております。

それでは議事に入りますので、ここより原会長にお願い申し上げます。

会長：本日は定例の 3 月審議会ということでお集まりいただきました。この会議は、原則公開となっております。傍聴のご希望はございますか。

事務局：ございません。

会長：次に議事録の署名委員ですけれども、名簿順ということで、前回市瀬委員にお願いしました。今回は伊藤委員にお願いします。それでは、2 番の協議の方に入らせていただきます。

２　協　議

会長：本日の協議の進め方について事務局からご説明をお願します。

事務局：前回の審議会でご提案しましたとおり、今期は仙台市市民センターの施設理念と運営方針の見直しに向けて、委員の皆さまからご提言をいただきたいと考えております。

１月の審議会では、市民センターの施設理念と運営方針に沿って、市民センターの事業の概要や運営などについてご説明しました。3 月と 5 月の審議会では、市民センター館長から、実際の取り組みを報告したのち、館長を交えて意見交換を行い、地区市民センターの現状について協議をさせていただきたいと考えております。なお、令和４年度事業概要の 15 ページ以降に、地区市民センターの基本的な役割が記してありますので参考にしてください。

それでは本日の資料 1 をご覧ください。まず、各市民センターから、当該館で取り組んでいる事業等についてご説明します。その後、グループに分かれて意見交換を行うという形で進めて参りたいと思います。市民センターからの報告は１館当たり 15 分程度を目安とし、その後、質疑応答に入り

ます。質疑応答の後、会場レイアウトを 3 つのグループに分け意見交換を行いたいと考えております。司会はグループ内で、話し合っていただきまして、委員の皆さまの中からどなたかご選出いただければと思います。各グループに、当センターの社会教育主事を 1 名配置し、ホワイトボードに記録をさせていただきます。意見交換は 25 分程度を考えております。その後、情報共有として各グループの代表 1 名から意見交換の概要について報告をいただきます。1 グループ 3 分程度を目安にお願いしたいと考えております。最後に、全体を通しての質疑応答の時間を設けまして、終了とさせていただきたいと思います。

グループ分けについて、全体の総括は原会長にお願いしたいと考えております。第 1 グループ、第 2 グループ、第 3 グループは表にあるとおりです。各グループに大沢市民センター、加茂市民センター、八木山市民センターの発表者、各区の中央市民センター長、生涯学習支援センター次長も加え意見交換を行いたいと考えております。資料 1 については以上でございます。

会長：前半は市民センター3 館からのご報告、後半からグループに分かれての意見交換、その後全体での情報共有ということです。幅広くご議論いただければと思います。それでは市民センターからのご報告についてお願いします。

事務局：本日は、大沢市民センター、八木山市民センター、加茂市民センターから 3 館続けてご説明をさせていただきます。はじめに、大沢市民センター館長よりご報告お願いします。

大沢市民センター：大沢市民センターの事例についてご報告します。大沢市民センターは平成 2 年 5 月に青葉区大沢地区に児童館とコミュニティ防災センターを併設して開館しました。平成 30 年に大規模修繕が行われて、今は明るくきれいに生まれ変わっています。市民センターがある地域は、青葉区の中心部から見て西北部にある田園地帯です。周りには緑多い丘陵地もある、自然豊かなところにあります。仙台市の大体中心に位置するので、地元の人は仙台の中心、へそにあたることから、大沢のへそと呼んで地元を愛しています。大沢市民センターの管轄する地域は、大沢中学校のある大沢地区、川前小学校のある川前地区に分かれています。ちょうど間に丘陵地があり、丘陵地で分断されているような感じになります。市民センターは大沢地区にあるみやぎ台団地のふもとにありまして、川前地区からは離れたところに位置しています。

地域の特性ですけれども、大沢市民センターの管内は古くからある芋沢という地区と、成熟した団地、比較的新しい団地が混在しています。地域全体を見ると、高齢化が進んでおり、芋沢地域は高齢化率が 50%を超えているところもあります。川前にある高野原団地というところは比較的新しい団地で若い人が多いという特徴があります。各小学校区に連合町内会があり、それぞれが活発に活動し、恵まれた自然環境と古い史跡が点在しています。また、地域住民はボランティア意識の高い方達が多いという特徴があります。

市民センターが把握している地域の課題は大きく 4 つあります。1 つめは地域が広範囲のために、大沢地区と川前地区の交流が非常に少ないことです。2 つめは、交通手段として、市営バスは運行していますが便数が少なく、自家用車以外の交通手段が少ない状況です。大沢地区と川前地区を結ぶバスの便が一日 5 便で、朝に 4 便、夕方 7 時に 1 便と、バスで移動をすることは難しい地域です。3 つめは、高齢化が進んでいることです。4 つめは、地域の中に大きなスーパーや商店街、銀行がない

ために、地域の中で交流する場がとても少ないということです。

市民センターでは地域の課題を少しでも解決するために、次の 2 点を意識して運営や事業展開をしています。1 つめは、地域交流・世代間交流ができる場や、機会を出来るだけ作り出すように工夫しています。2 つめは、学ぶ意識、積極的に活動する意識の高い意欲的な住民が多いので、生涯学習の場や機会を多く作っていくことを心掛けながら運営をしています。

大沢市民センターの各種講座の取り組みについて主なものをお話していきます。これは、大沢地域出前講座です。主に、市民センターから遠い川前地区にお住いの方対象に、集会所やコミニティセンターに出向いて出前講座を開催しています。生涯学習地域交流の場を提供することにより、地域活性化につながっています。今年度は 5 回実施しました。

こちらは大沢朗々学園です。いわゆる老壮大学になりますけれども、高齢者の生きがいや学習意欲を維持できるように、さまざまな内容の講座を提供しています。館外学習として、大人の遠足という題名で八木山動物園に行きました。「久しぶりに来れてうれしい」「孫と一緒じゃないとこんなに見られるのね」という話もありました。

こちらは市民企画講座です。市民企画会を経て実施する講座になります。一昨年、昨年、今年と、市民企画講座からサークルが立ち上がっています。

こちらは大沢・川前地区合同発表会です。3 年前に、コロナ禍の活動を地域に発表する場が少なくなったという学校の声を受けて始めた事業になります。地域内の幼稚園、小学校、中学校の子どもたちの作品展と、それから活動映像の上映をしています。地域全体の交流と、地域ぐるみで子育てを支援する意識の構築につなげています。令和 6 年度は保育園も交えて、地域内の教育関係の発表をしていきたいと考えています。

スポーツで交流するグラウンドゴルフ交流会は、大沢と川前の両学区民体育振興会と協働で実施している、大変人気の講座です。募集するとすぐに定員に達してしまいます。今年度の参加の最高齢者 92 歳の方でした。若い方は 60 歳ぐらいです。

こちらは大沢農学校です。大沢の農学校では、地域を見直すきっかけ作りと共に、受講生が地域人材として活動できるようにつなげています。例を挙げると、児童館の子ども農学校の先生になってもらったり、キムチ作りの講座の講師になったりしています。

小さな発表会はサークル活動の様子を発信することで、交流と活性化につなげています。

大沢地域懇話会は、地域課題やニーズを把握する機会として、年 3 回実施しています。

続きまして、特色ある取り組みの事例として「大沢・川前地域交流ネットあがれ！天旗」を紹介します。これは、古くから仙台に伝わるするめ天旗という凧を作って凧揚げをする事業です。平成 25 年度から始まり、令和 4 年度に 10 年目を迎えました。スルメの形に似ているので、するめ天旗といいわれているそうです。

この事業を始める背景として、まず大沢と川前の交流が少ないという地域課題を、何とか解消できないだろうかということから、平成 25 年度に両地区の交流と活気ある地域づくりを目指して始めました。1 年目の平成 25 年度は、大沢&川前交流ネットと名付けた市民企画会議で、多くの人が参加できる凧揚げイベントをすることとしました。2 年目の平成 26 年度は、1 年目の手応えから、凧揚げを継続して実施できるようにしたい、ということで実行委員会を立ち上げました。せっかくだから 10 年は続けたいという目標を実行委員会で立てたようです。3 年目は平成 27 年度から、「大沢・川前地区交流ネットあがれ！天旗実行委員会」として活動が始まります。実行委員会では参加者を増や

す、それから、よく上がる凧を作るというテーマを設けて主体的に活動しました。テレビにも出演して宣伝したようです。また、児童館などで出前講座を行いました。これは上がれ！天旗実行委員が児童館や子供会へ出向いて凧作り講座を開き、子どもたちと一緒に凧を作りました。さらに他の地域で開催される凧揚げに参加して情報収集をしました。具体的には根白石、それから大衡、そういったところでの凧揚げイベントに参加しています。また、実行委員会の誰が教えても、同じように揚がる凧を作れるようにしたいということで、設計図・型紙・スケールなどを全て手作りで実行委員が作りました。

4 年目以降、実行委員の地道な活動が実を結んで、100 名を超える参加者があり、凧揚げで交流を図ることが出来ました。

8 年目にあたる令和 2 年度からコロナの影響を受けました。コロナ禍で実施の有無について検討することになりましたが、実行委員全員が、実施するにはどうすればいいか、という前向きな考えをもっていました。やめようという声は一切ありませんでした。そこで話し合われたことは次のとおりです。「凧揚げは外で行い、密集しないで実施できる。」「開会式や交流会は密集するのでやらない。」「対面の凧作り講座はやらない。」「凧作り講座をやらない代わりに凧作成キッドを配布して親子で家で作ってもらう。」「配布する凧作成キッドの説明書のほか、動画を作って Youtube で公開する。」という前向きな動きがスタートしました。これまでとは形を変えながら、コロナ禍でも中止せずに継続して実施しました。

目標であった 10 年目の令和 4 年になりますけれども、大々的に実施することが出来ました。凧揚げ当日は、150 人を超える参加者がありました。天候が良くよい風も吹いたので、参加者の凧が一斉に 40 近く舞い上がるという場面もありました。実行委員が連凧のデモンストレーション行った時に、たまたま近くの田んぼに来ていた白鳥が 30 羽ぐらい飛び立って、そのコラボが大変きれいに見え大盛況で終えることができました。

今年度は、10 年を一区切りとして実行委員会を辞めるということになりましたが、地域に根差した老若男女が交流する場として、この事業は継続する必要があるという市民センターの思いを伝えたところ、愛好会ということでお手伝いをしてくれることになりました。具体的には、キッドの作成や凧作りの講師として全面的に協力をいただきました。また、実行委員は発足当時、平均年齢が 70 歳くらいで、さらに 10 年経ちましたので非常に高齢化しています。新しい人材を入れたいということで、凧揚げに参加していただいた地域の子育て世代の家族に声がけしたところ、3 家族がキッド作りなどの愛好会の活動に継続的に参加してくださいました。また、今年度は、大人のための凧作りとも行いましたので、参加者にも声がけをして次の世代につなぐ人材を発掘しているところです。

今年は凧作り講座、子ども向け 2 回、大人向け 3 回、キッド作りを 4 回、動画作成、と順調に講座は進みましたが、凧揚げ当日雨で中止になりました。11 年目にして初めての中止です。ところが愛好会の方たちは、交流が目的だから中止することはないということで、体育館に集まってグラウンドゴルフをやって交流を深めるという、とても前向きな人たちでした。

成果として、世代を超える交流を図るイベントとして地域に定着したことです。実行委員の方々が、それぞれのスキルを活かして、地域人材として町内会はもちろん、市民センターの事業、児童館の行事、小学校との連携などさまざまな場面で活躍しています。また、実行委員の所属しているサークル活動同士の新たな交流が図られています。

課題としてはやはり、愛好会メンバーの高齢化と、あとに続く人材の発掘・育成があげられます。

Youtube もしているので、若い人達にも手伝ってもらえるようなアピールを続けていきたいと思っています。また、雨天時のプログラムを準備したほうがよいということが今年中止になって分かりました。

今後の展望として、まず、事業を継続し地域や人と交流する場として続ける意味は大きいと考えています。市民センターの職員は入れ替わりますが、しっかり引き継いで継続できるようにしていきたいと考えています。後継者の育成のため、愛好会との交流を足がかりにしながら、今年度協力いただいた方や凧作り講座に出席してくださった方々などの発掘・育成を図っていきたいと考えています。

大沢市民センターの良さは、顔の見える関係を利用者や参加者と築けているというところだと思います。これからも、そういった関係を作りながら、信頼される地域の要になる市民センターを目指していきたいとい考えています。

事務局：ありがとうございました。次に、八木山市民センター館長からご報告をお願いします。

八木山市民センター：八木山市民センターの事例を発表させていただきます。

八木山市民センターは晴れた日は福島県新地町の火力発電所が見えるという非常に眺望が良い所です。市民センターは 4 階建ての建物になっており、年間の利用客は約 5 万人です。コロナ前とコロナ後を比較すると今年は 1.5 倍の利用客になっています。また、市民センターは地下鉄東西線八木山動物公園駅に隣接しており仙台駅から 12 分で着きます。バスのターミナルもありますので、地域交通のハブの駅となっています。一方、市民センターは八木山地区の中で一番高い所にあるため、遠くから高齢の方が歩いて通うには非常に難しい場所です。出前講座なども含めて検討する必要があります。周辺の主な施設として東北工業大学、仙台赤十字病院、ベニーランド、動物公園、東北放送、消防署などがあります。こちらのグラフは 10 年前と去年を比較した人口の年齢別の動態変化です。70 歳以上の高齢者層が増えていますが、次に 30 代半ばから 50 代までの子育て層が増えています。地下鉄東西線駅によるハブ機能活かし、人口が延びている世代を対象に、市民センターの事業をより多く展開していきたいと考えています。

市民センター単独で行う事業はほとんどありません。地域や関係団体の方々といろいろと交わりながら事業展開しています。例えば老壮大学の講師の方々も、地域の資源を活用し地域の方々にご協力いただいて行っているところです。

いくつかの事例をご紹介します。八木山中学校の 1 年生を対象とした防災授業です。救急救命講習として、何かあったときに自分たちが助けるという意識を育てるため、消防関係の方に協力をいただきながら生徒全員に簡易キッドを配って全員で実演しています。

地域防災シンポジウムの取り組みで、今年度は立体模型のジオラマを作って、地域のどこが危ないかということを、小学生から高齢の方々までピンを刺しながら危ない所を視覚で訴えるという企画をしています。この企画やチラシは八木山中学校の生徒達の提案で作っています。

アミューズメント施設であるベニーランドも地域にとって大きな財産です。ベニーランド内に「でっかい夢」を描く企画があり、中学生が企画員として描画場所やテーマを決め、地域の小学生が絵を描きました。中学生が主体的に考え、市民センターや地域の皆さまと連携しながら実施しています。

地域の小学校に「おやじの会」があります。おやじの会の世代は 40 代、50 代と若くバイタリティがある世代ですので、おやじの会同士の広いネットワークを作ろうということになり、5 つの小学校

のおやじの会のネットワークを作りました。「おやじ」たちの交流機会を構築し、将来、地域を担う人材の育成につなげていきたいと考えています。

仙台八木山防災連絡会のパンフレットの裏面の構成団体をご覧ください。仙台八木山防災連絡会に加盟している地域団体の主なものですが、この事務局を当市民センターが行っており、地域とつながる大きなきっかけになっています。事務局として各団体の方に電話するとすぐ会ってくれるなど横の連携も作りやすくなっています。

活動の支援として、「八木山みんなのカフェ」として、社会福祉協議会や地区民生委員児童委員協議会等の皆さまと連携しながら行っている事業です。今年は高齢者向けにスマホの操作を教えるスマホの交流会を 5 回開催し、東北工業大学や仙台城南高校の生徒さんがボランティアとしてサポートし、交流しながら学ぶということで、双方にとって嬉しい交流会だったという声がありました。

令和 6 年度に本格的に立ち上がる八木山駅前ロータリー運営委員会の活動支援ですが、ここのロータリー運営を担うのが、いわゆる子育て世代の 40 代～50 代が中心になってきます。この世代のネットワークと、市民センターの活動をリンクさせながら、市民センターにも、子育て世代が集って企画できるようなものをこれから模索していこうと考えています。

特色ある事業として市民センターまつりをご紹介します。5 年前は一部の発表を除くと会場が閑散としていました。コロナ禍と台風の影響で 4 年間中止になりましたので、ある意味いいきっかけとしてゼロベースで組み立てたいと、地域の小学校、中学校の校長先生とお話しながら、子どもたちを地域でどう育成し地域とどう関わっていくか話し合いました。自主・自立というキーワードで子どもたちを育成していきたいという話がありました。PTA 会長とも話し、おまつりの中で子どもたちが自主性・自立性を発揮する場面を作ろうということで、会長からまつりの実行委員会に提案していただきました。子どもたちの成長のために、失敗しても子どもたちは成長するからみんなで見守っていこうと、地域を担う人材を育成しあらゆる世代が楽しく参加できるまつりをテーマとしました。

子どもたちがどう参画していくかということで、地域の小学生 5 名、中学性 6 名、合計 11 名が企画員として応募いただきました。まつりの企画会は子どもたちだけで、基本的に大人は何もしゃべらないという前提で 7 回開催し、自分達でやりたいことを提案してもらいました。「八木山市民ふれあいまつり」をご覧いただくと、ヤギさんマークが付いている体験コーナー、クイズ大会、キッチンカーなどが、全部子どもたちがやりたいと企画したものです。当日は、オープニングセレモニー、司会、クイズ大会の進行なども小学生や中学生が行いました。クイズ大会はおやじの会がサポートし、ビンゴ大会は東北工業大学の大学祭実行委員会と連携しながら行いました。大学生と子どもたちでどうしたいか決めてもらったら、こんなに素晴らしくできました。参加者からもいい取り組みだったので継続してほしいという声がありました。学校関係者の方からも、単発のボランティアではなくて、ある一定期間継続して地域の方たちと関わりながらやることが、生徒の自主性と成長につながると評価をいただきましたので、令和 6 年度も継続していきたいと考えています。

市民センターは、いろいろなネットワークの中で連携し事業を組み立てています。事業をするのが目的ではなくて、事業に関わる人材を、地域の宝として、成長を促していく場をどんどん作って行くのが市民センターとしての役割だろうと考えています。これらを実現するために当市民センターが目指すべき姿として、市民センターが地域をつなげるハブとなって、地域を担う人材が集い、その人材がどんどん広がっていくということを、連携活動支援を通じて実現していきたいと考えています。市民センターの活動についてご報告させていただきました。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。それでは最後に加茂市民センター館長より発表をお願いいたします。

加茂市民センター：加茂市民センターの事例を報告します。加茂市民センターに勤めるようになりまして今年度で 2 年目になります。それまでは嘱託社会教育主事として学校現場から地域のために関わっていただいている方とともにさまざまな活動を行ってきました。今度は市民センターから地域の方や学校等と手を携えることになりました。

初めに加茂市民センターについて紹介させていただきます。市民センター事業概要の 162 ページに市民センターのこれまでの沿革がございます。平成 24 年に本館と体育館の大規模改修がありました。学校施設の体育館と同様の建物で非常に大きくしっかりとした建物です。天井も高く皆さまにご活用していただいております。平成 25 年には元泉消防署の加茂分署の一部を会議室及び市民活動室として改修し別棟として使用を開始しました。稼働率は非常に高くなっております。加茂市民センターは本館と体育館と別棟という 3 つの建物を管理しています。

担当エリアは加茂中学校区ということで、加茂小学校区と虹の丘小学校区、地域で言いますと加茂、上谷刈、虹の丘、みずほ台という大きく 4 つの地区に分かれています。加茂、虹の丘地区は昭和 50 年代に造成された戸建てが主体の住宅地で急速に高齢化が進んでいます。それに対して上谷刈、みずほ台は地下鉄南北線開業後に開発が進んだということで比較的若い世帯、賃貸マンションやアパートの世帯が多くて高齢化率は低いという状況です。それに伴って町内会への入会比率は非常に低く、町内会長等は頭を抱える課題が地域にはあるということです。

地域資源として、長命館公園がございます。仙台市内に 4 カ所ある歴史公園のひとつです。里山としての公園、ボランティアによる公園管理を行っています。このボランティアさんとは加茂市民センターも共に活動しています。二つめは水の森公園で、こちらはキャンプ場を備えております。三つめは県の指定重要文化財の賀茂神社、最後に古内志摩義如の墓があります。伊達騒動の唯一の生存者で事件の目撃者であるという古内志摩義如さんとその古内家一族の墓石が地域内にあります。そちらを整理して地域で守っていこうということで、市民センターの講座から立ち上がった歴史ガイドボランティアサークルとともに、年２回清掃奉仕活動を行っています。

市民センターの側から見た加茂地域の課題としましては、年々加速する高齢化です。これに伴い地域の諸団体の役員の担い手がなかなか見つからなくて、町内会や社会福祉協議会の方々とはよくこの話になります。地域による状況の違いというのも地域課題のとしてあげることができます。さらにここ２～３年で急激に公共交通機関の利便性が低下してしまって、とにかく足が無いと。タクシーで行くにもお金がかかり地理的にも高低の差が非常にあるので、高齢者の方はどうやってここで生活していこうかと悩んでいる方が多いです。地域内にあったスーパー、銀行が次々と撤退し、こちらも地域住民の生活に直結するものですので皆さん困ってらっしゃる状況が続いています。

これらの課題解決に向けて加茂市民センターとしてできる取り組みということでいくつかご紹介します。まず出前講座を年 2 回、虹の丘地区で実施しています。加茂市民センターは加茂団地の入り口にあり、虹の丘地区からは車やバスでないと来られません。地理的に遠いということで虹の丘、みずほ台の方々は足が遠のいてご利用いただけないという状況ですので、こちらから虹の丘コミュニティセンターに向かい出前講座として主に虹の丘、みずほ台地区の方に講座を開講しています。地域内に２つの児童センターがあります。加茂児童センターと虹の丘児童センターと共催、連携して年

数回子ども向けの講座を実施しています。3 館連携で行ったり 2 館で行ったりと時期と対象を変えて行っています。また、加茂まちづくり協議会事務局に参加し意見交換や情報の共有を行っています。

加茂市民センターの各種講座の取り組みについてご説明します。冊子の 15 ページ、地域住民本位の生涯学習拠点機能として、高齢者の生きがいづくりを目的として「ワイワイ若返り塾」という名称で、いわゆる老壮大学を月 1 回、年間 8 コマ提供しています。定員を越える応募があり、非常に意欲的に応募されておりますので状況等考慮して、定員をオーバーしてもお受けしています。来年度に向け運営委員会の委員さんと連携を取りながら準備を進めている所です。年に 1 回、館外研修として市民センターではないところに出向いて学習を行いました。

加茂市民センターまつりです。それまでは 2 日間で行っていましたが、高齢化もあって準備も大変だという声が非常に多かったので、コロナ後は 1 日で中身の濃いおまつりにということで実施しました。

地域のコミュニティづくり機能としましてはボランティアやサークル活動の支援を行っています。先ほどお話いたしました古内志摩義如の墓の清掃活動の様子です。年 2 回、早朝に行っていまして、地域の方とお話をしながら活動をしています。長命館公園サポーターズクラブという講座から立ち上がったサークルとの共催で、年に１～２回講座を開催しています。勉強会を開いたり、長命館公園にある植物をもとに色々な勉強をしたり、ものづくりを行っています。

地域のコーディネート機能としましては地域懇談会を加茂小学校区と虹の丘小学校区の２つに分けて行っています。以前は虹の丘小学校区も加茂市民センターで行っていましたが、地理的に遠いということで出席率あまり芳しくない時期もあったということなので、虹の丘小学校区は虹の丘コミュニティセンターを借りて開いています。出席率はほぼ 100 パーセントに近い状況で皆さまからご意見をいただきました。

特色ある取り組み事例として事業概要 16 ページにあります地区市民センターの役割の（２）地域交流拠点機能の中の地域住民の交流の場、子どもたちの交流の場の確保の取り組みにあたります市民センターの市民企画会議、寄り合いアップデートラボについてご説明します。こちらの事業を始めるきっかけは、小学校の父母教師会の会長、加茂地区の子ども育成会会長を兼務されている方の「地区の子どもたちのために何かやりたい、加茂地区が本当に好きでしょうがない」というお話しから始まりました。加茂市民センターをご利用いただいている方もどちらかというと 70 歳以上の方が多く子どもの利用が少ないです。市民センターとしても子どもたちに集まってもらえないかと考えていたところで、この市民企画会議を立ち上げることにしました。市民センター側のねらいとしましては地域の世代間交流と世代交代です。急速に進んでいる高齢化、子育て世代は忙しくて何かやりたいけれども時間がない、ここに住み続けたいけれどどうしたらいいだろうという皆さんの不安を何かの形で解消できないかと考えました。地域に愛着を持っている方が多いので、その方たちを中心に若い世代も巻き込もう、そんな思いで始めた事業でした。企画員の立ち上げとして、小学校の PTA 会長、子ども会育成会の会長と情報交換し、同じ思いの人を集めてくださいました。皆さん中学校の色々な役職についている方ですが、その役職とは関係なく自分たちはやりたいとのことでした。また、地域で事業をされている方は、人脈を使ってお互いに協力し合って地域の子どもたちのために何かをしたい、協力者はいっぱいいるよとのことでした。

まずは、若い人もおじいちゃんおばあちゃんもみんな一緒に楽しめる地域を生き生きとできるよ

うな事業で、いろいろな世代が関わり、市民センターを拠点として始めることとしました。企画委員会からは、子ども食堂、まんが図書館、バザー、さくらんぼの種飛ばし、スリッパ飛ばしなど面白いイベントをやりたいという意見があり、最終的にフリーマーケットをすることになりました。中学校で元々バザーをやっていましたが現在はやらなくなっていたのでやってみようということになりました。話し合いを進めていくなかで事業の目的などを確認しながら、皆さんで会議をして、チラシを作ったり、説明会を行ったりしながら当日を迎えました。

ステージのゲストイベントは企画員さんのお友達で、地域で活躍されているマジシャンとけん玉の有名な方です。ステージ発表やキッチンカーにも来てもらって、市民センターにいて楽しんでいただけるような工夫もしました。当日ボランティア・スタッフとして 8 名ほどお手伝いいただきました。延べ 350～360 名いらっしゃってくださいましたが、出店者から全然売れないのでもっとたくさんの人に来てほしい、もっと広報を工夫してほしいという意見が多数寄せられました。Kamonet 事務局としては今回の 1 回目は成功とは言えないけれども、出店者のモチベーションを上げるための工夫など、持続的なまちづくりをしていくためのヒントはあったのではないかと考えています。

Kamonet 事務局に参加したいという方が何人かおりましたので、イベントの成功・不成功だけではなく人材の発掘ができたと考えています。Kamonet 事務局としては、地域の活性化につながっていくさまざまな世代の人たちが、この地域で生き生きと暮らしていけるようなまちづくりができる、その担い手となっていきたいという展望があります。加茂市民センターとしても地域の拠点としてさまざまな支援をしていきたいと考えています。いずれこのフリーマーケットは独り立ちして単独でイベントとして地域で楽しめるものになっていけばと、現在、2 年目に向けて計画を進めている所です。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。市民センター館長からのご報告は以上でございます。

会長：ありがとうございました。3 つの市民センターからさまざまな活動の状況、それから課題分析等、この後の議論が楽しみな題材を十分提供していただけたかなと思います。この後グループに分かれまして意見交換を行いますが、その前に全体を通じて何かご質問等ございましたら、お受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

（質問等なし）それでは意見交換ということで事務局の方にお返しいたします。よろしくお願いします。

事務局：事務局にて椅子、机を移動いたしますので、皆さま、いったんお荷物のご移動をお願いします。

会長：この後 25 分ぐらいですけども協議進めていきますが、各グループで司会を決めていただければと思います。印象に残った点、地区の事業の目的や役割を踏まえた市民センターの役割についてのご意見、今後の期待と、大きく 3 点についてご意見をいただければと思います。今期の審議会のテーマとして、運営方針について次期のもの考えていきますので、今後への期待などをご議論いただけると今後に生かせると思います。まず、皆さんそれぞれのご発表の中で面白かったことや気が付いたこと等を皮切りに、今後への期待へ話を進めていただければと思います。

（意見交換）

会長：時間は残り１分少々になります。

会長：意見交換についてはここで終了とさせていただきます。ありがとうございました。それではこの後、各グループでどんな意見が出たか 3 分程度でご報告いただければと思います。ではまず第１グループからお願いします。

委員：大沢市民センターさんの事例報告を受けて、まず印象に残ったことはまず館長の人柄がとても良く、集っている方々も館長に惹かれているのではないかというお話から始まりました。地域や団体をつなぐ工夫もされており、児童館も併設されているということで世代間の交流もされています。するめ天旗の方も、今年、子どもたちを連れたご家族が参加してくれたということなので、その方達や他の方も巻き込むことで、人の入れ替わりも必要ではないかという意見もありました。エリアが広いですが色々工夫していただいているようですので、遠い地域のつながりも大切にしていただく企画を今後も期待したいと思います。

会長：ありがとうございました。続いて第２グループお願いします。

委員：どの市民センターも、地域を好きな人や何かしたい人・団体を探し出すこと、それらをつなぐハブ的な役割をされていました。こちらのグループには、加茂市民センター館長がおりますので、加茂市民センターの話が主なものでしたが、初年度にして人材探しと素晴らしいイベントまでこぎつけたと感じました。こちらのグループには実際参加された方もいました。課題もあげられていましたが、課題はこれからもつなげていくには本当に大事なことで、参加した方から売れ行きについて意見があったようですが、逆にその参加者も運営側に巻き込んでいくとよいと思います。関わる人が増えてつながっていくとよいという意見もありました。

　どの市民センターも立地の問題は難しいと感じます。遠いところに高齢者で出向くことも難しい。そんな中で市民センターの方々が工夫して出向くことを企画しているところが、まだまだ課題があるけれども今後に期待したいと思います。

　人をつなぐハブとして難しい人材では子どもたちかと思います。小中学生は学校行事の忙しさであったり、温度差であったり、学校の協力が必要であるなど、強制はできない中、学校教育でも必要なこととして受け止めていただいて子どもたちを地域活動に混ぜることができるかということは、今後期待したいし、課題だと思います。

会長：ありがとうございました。広く各センターについてご検討いただきました。第３グループお願いします。

委員：第 3 グループでは八木山市民センターの事例について話し合いました。印象に残ったこととして、さまざまな団体が同じ方向を向いており、現状で満足していないというところが本当に素晴らしいしうらやましいということでした。目的や役割を踏まえた意見ということで、今後は横のつながりも

大事にしていきたいということがあげられていました。八木山の事例は主体が住民、子どもたちであるということです。住民に委ねられているところが主体的に参加しやすく、動きやすいと感じました。世代間交流や学校との連携も非常にうまくいっているのではないかと思いました。

今後への期待として仙台は多国籍の方々も増えています。多文化共生が今後課題になるのではないかなと思います。住んでいる人だけではなく、他の国からいらした方をこの仙台という町の中にどうやって取り込んでいくかという視点を持つといいのではないかと思います。地下鉄東西線ができて、働いている人たちが多く八木山に来ているそうですが、八木山の住民と、八木山に通っている方々を駅前ロータリーの方に留めおいて、そこでいろいろな活動に参加していただくというのもとても新しい視点なのではないかなと思いました。

上手くいっている事例の成功の要素を抽出して共有し、社会に発信していくとよいと思います。もちろんこの審議会でまとめて色々活動はしていますけれども、もっと広く仙台市全体やもっと広い地域に発信して、こんな風にやるとこうなりますよ、参加している人はこんな風に思っていますということを発信していけるといいのではないかと思います。多文化共生、住民プラスアルファの企画、そして社会への発信が今後期待したい点になるかと思います。

会長：ありがとうございました。私から最後に総括として 2 点ほどお話させていただきます。1つめは学校の場合、学習指導の 3 要素というのがあって、教師・子ども・教材、これら 3 つが結びつくと学習指導がなりたっていきます。それは地域でも同じであって、例えば教師にあたるところは市民センターあるいはセンターの職員であり、子どもの部分が住民です。教材ですが、地域になると例えば先ほどの事例報告の凧の話や地域課題など、市民センターと住民をつなぐものがあるかどうか、それを探せるかどうかというところが次の展開に大きく関わってくると思います。学校と地域の違いとして、学校の場合、教材は学ぶ時の手段ですが、生涯学習や社会教育の場合はその教材の部分が目的になることもあります。地域課題を解決することに目的となる部分があるのでそこをうまくつなげていく、教材にあたる部分を見つけ出しそれを上手く地域の中でつなげていくことがあげられます。

今日の発表の中でスライドの中にフローチャートがありました。ロジック・モデルといって目標や目的に対してどうすればつながっていくのかという図ですが、考え方として下から考えていかなくてはいけない。3 年後にここに達成するために 2 年前にはどこまで行かなければいけないか、1 年前にはどこまで行かなければいけないか、という風にその目的に対してどのような手順を追っていくのかという考え方です。先ほど申し上げた教師・子ども・教材のつながり、目的は何か、どういうことをしていかなければならないか。何が目的で何が手段なのか。仕組みを作るということは手段であって、何かを解決していくことが目的であり、その目的と手段を組み立てて二つをうまくつなげると、それぞれの市民センターとしての取り組みが見えてくるのかしれないと、今日の発表や意見交換を通じて考えたところです。先ほど全体を通してのご意見ご質問ということでお伺いしましたが改めていかがでしょうか。

八木山市民センター：一つだけ補足させていただきますと学校とのつなぎということで、今までは子どもの企画会などは市民センターで行っていたのがほとんどですが、やはり子どもたちは放課後や土曜日も部活等もありますので、学校の先生方と相談し、高校や大学も含めてオンラインで各学校をつないで企画員の交流会を進めていく予定です。

会長 : ありがとうございました。いい情報を頂きました。それぞれの事情もありますので、上手く活用できることや、参考になることを共有できいい機会になったと思います。この審議会も 3 回目でかなり深まってきたというか、1 回目緊張し、2 回目少しほぐれて、いよいよ 3 回目このような感じになってきました。次回も期待したいと思います。それでは事務局にお返しします。

事務局 : ありがとうございました。次第の 3 その他について、皆さまから全体を通じてご意見やご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

（質問等なし）それでは次回の日程でございますが、令和 6 年 5 月 16 日（木）午前 10 時から、会場は生涯学習支援センター5 階第 1 セミナー室を予定しております。開催案内は 1 カ月前を目安に文書でお知らせします。仙台市市民センター事業概要を回収いたしますので机上に置いたままで結構です。以上で本日の会議を終了といたします。

以上

会　　長

会議録署名委員